

天王寺区将来ビジョン

～ “住んでよかった” と思える天王寺区をめざして～

2017年4月

天王寺区役所



＜参考資料3＞

— 目 次 —

第1章 区の概況と特性

天王寺区の概況	．．．．．	P 1
天王寺区の特性	1 統計データから見る特徴	．．．．． P 4
	2 アンケート結果から見る傾向	．．．．． P 9

第2章 区の将来像 ．．．．． P 10

第3章 施策展開の方向性

・「みんなの『思い』が区政に反映されているまち」に向けて

1 「区民の声」集約と反映プロセスの強化	．．．．．	P 12
2 区民に身近な総合行政拠点としての区役所づくり	．．．．．	P 13

・「未来を担う人材が育成されているまち

～日本一の文教『都市』の実現～」に向けて

3 「日本一の文教『都市』」をめざした人材育成の取組	．．．．．	P 15
----------------------------	-------	------

・「『命を守る政策』がしっかりと進められているまち」に向けて

4 支援を要する人一人ひとりの命を守りぬく地域福祉	．．．．．	P 17
5 地域の力を結集した「防災力」向上の取組	．．．．．	P 18
6 子どもの安全安心を守り、誰もが安全で安心に暮らせるまちづくり	．．	P 20

・「歴史的・文化的資産を活かして

多くの人が集いにぎわうまち」に向けて

7 戦略的なシティ・プロモーションの推進	．．．．．	P 22
----------------------	-------	------

・「つながりあい、支え合い、助け合うまち」に向けて

8 大きな公共を担う活力ある地域社会づくり	．．．．．	P 24
-----------------------	-------	------

第 1 章 区の概況と特性

天王寺区の概況

天王寺区は、大阪市のほぼ中央に位置し、地勢は西高東低で南北にのびる帯状の上町丘陵と呼ばれる台地にあります。面積は 4.84 ㎢で大阪市 24 区の中で 4 番目に狭小な区です。

市内でも屈指の古い歴史を持つ天王寺区は、我が国仏法最初の大伽藍で、聖徳太子の創建（593 年）による四天王寺をはじめ 200 余りの社寺があるほか、神社仏閣の間を抜ける古い坂道が昔の姿を今にとどめるなど、歴史的・文化的な史跡が数多く残る歴史と伝統の息づくまちです。



四天王寺



口縄坂

また、天王寺公園をはじめ緑豊かな多くの公園があり、大学から幼稚園まで 70 近い学校・園を有し、美術館、動物園などの文化施設にも恵まれた文教のまちとして知られています。



市立美術館



天王寺動物園

区内には、JR を中心として地下鉄、私鉄等の各線が集結した天王寺ターミナルがあり、付近の百貨店、商店街、地下街等の商業活動も盛んで、大阪でも有数の繁華街を形成しています。最近では、隣接する天王寺公園のエントランスエリアが整備され、広大な芝生広場と多彩なテナントが誕生し、周辺地域を

＜参考資料3＞

つなぐ新しい交流拠点「てんしば」が完成しました。また、もう一つの大きなターミナルである上本町の周辺は、大阪国際交流センターや大阪日本語教育センターが国際交流の拠点として活動しているほか、「大阪 新歌舞伎座」を核テナントとした上本町 YUFURA（ユフラ）により、大阪の新しい文化・情報の発信基地となっています。



天王寺ターミナル



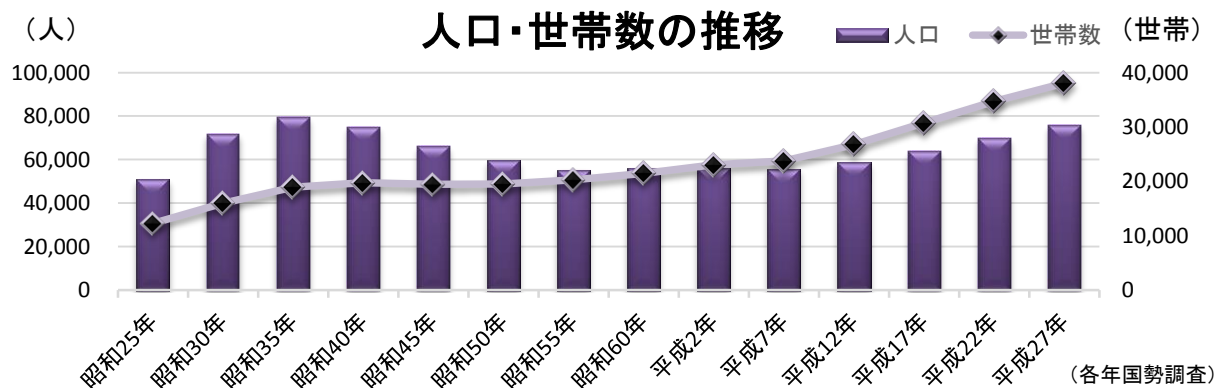
上本町ターミナル



都会の真ん中で一日過ごせる芝生広場“てんしば”



当区の人口は、昭和50年代から、ほとんど変化なく5万5千人前後で推移していましたが近年はマンション建設の増加に伴い、平成14年には6万人、平成28年には7万7千人を超えるなど増加傾向にあります。



＜参考資料3＞

歴史と伝統の息づく文教のまち、充実した都市基盤と緑豊かな環境に恵まれた天王寺区は、区民の一人ひとりが明るく住みよい“まち”として、一層の発展が期待されています。

■現在の人口・世帯数

77,508人（男36,013人、女41,495人） 38,984世帯

【平成29年1月1日推計人口】

■区名の由来

四天王寺の存在によって、付近一帯が古来「天王寺」の名で知られていたことから名づけられました。

■区の花

もも・パンジー。ももは、明治時代まで区内に大きな桃畑があったことから、またパンジーは、落ち着いたイメージが天王寺区にふさわしいことから、それぞれ昭和63年に選ばれました。

■区のマスコットキャラクター



「ももてんちゃん」は区の花「もも」がモチーフ、サブキャラの「かぶ太」はなにわの伝統野菜「天王寺蕪^{かぶら}」、「天の王子」は四天王寺にある五重塔がモチーフです。

天王寺区の特性

1 統計データから見る特徴

- 天王寺区では、近年、毎年人口が増加しています。大阪市平均の増加率よりも高い傾向が続いています。



		平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
対前年 増加率	天王寺区	1.99%	1.79%	1.28%	1.65%	2.06%
	全区平均	0.19%	0.17%	0.04%	0.42%	0.40%

(平成 22 年・27 年は国勢調査、他は各年 10 月 1 日現在の推計)

- 当面の間、天王寺区の人口は増加する見通しです。

区内人口将来推計

		2020 年	2025 年	2030 年
人 口		78,888 人	82,478 人	85,777 人
構成 (人・%)	0～14 歳	8,776 人 (11.1%)	8,320 人 (10.1%)	8,326 人 (9.7%)
	15～64 歳	54,116 人 (68.6%)	57,835 人 (70.1%)	59,829 人 (69.8%)
	65 歳以上	15,996 人 (20.3%)	16,323 人 (19.8%)	17,622 人 (20.5%)

(大阪市政策企画室調べ)

- こども・子育て世代の人口については、大阪市全体で減少する中、天王寺区では増加しています。

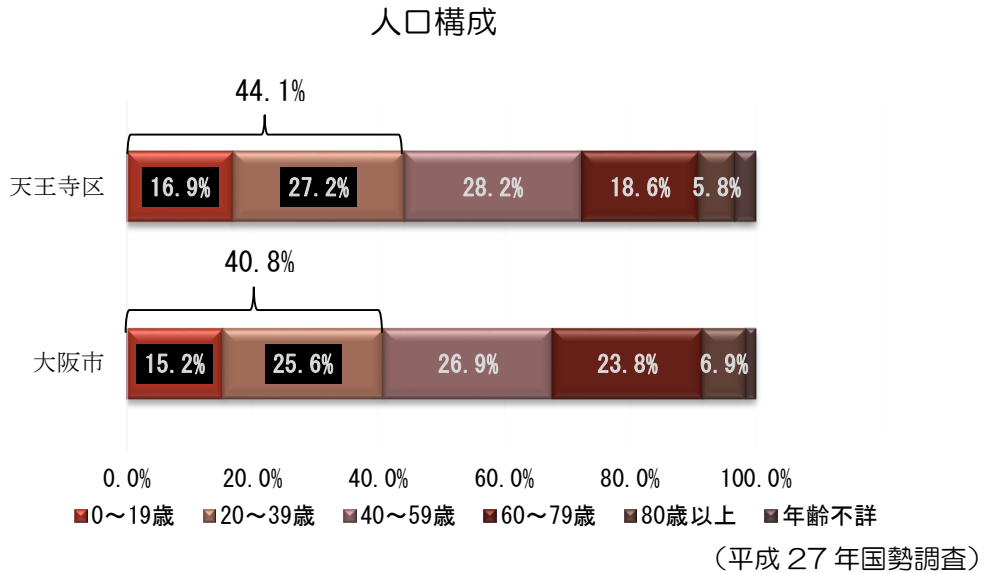
人口推移

基準年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
0～39 歳人口 (天王寺区)	28,895 人	31,286 人	32,224 人	33,349 人
対前基準年増加率	—	▲ 8.3%	▲ 3.0%	▲ 3.5%
対前基準年増加率 (全区平均)	—	▲ 4.3%	▲ 2.7%	▲ 6.3%

(各年国勢調査)

＜参考資料3＞

- 40歳未満の子育て世代とこどもの割合は、区内人口の約44%を占めます。大阪市全体を約3ポイント上回っています。



- 65歳以上人口については、大阪市全体で増加する中、天王寺区でも同様に増加しています。

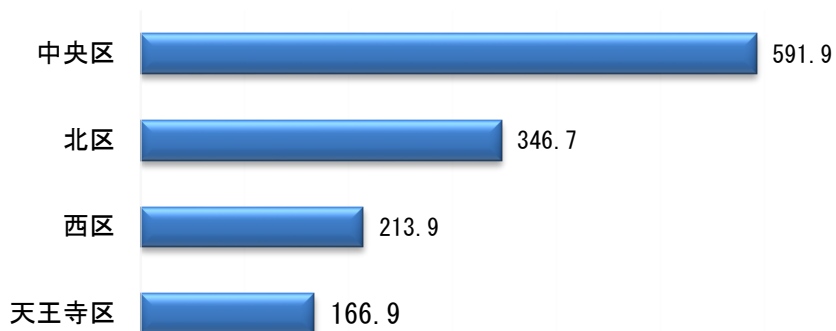
人口推移

基準年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
65歳以上人口(天王寺区)	9,942人	11,387人	12,680人	14,529人
対前基準年増加率	—	↑ 14.5%	↑ 11.4%	↑ 14.6%
対前基準年増加率(全区平均)	—	↑ 19.1%	↑ 13.1%	↑ 11.7%

(各年国勢調査)

- 天王寺区内の昼間人口は、夜間人口の約1.7倍になります。

昼夜間人口比率(常住人口100人あたりの昼間人口)上位4区



(平成22年国勢調査)

＜参考資料3＞

- 区内には、多くの学校園が集積します。昼間の中学生の数は、大阪市24区中2位、高校生の数は、同1位です。

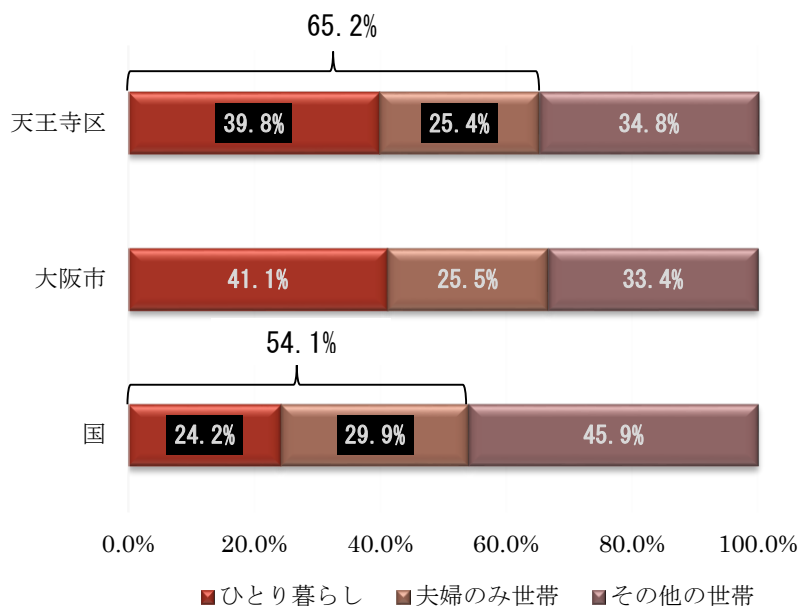
学校園数および生徒数上位3区

順位	学校園		中学校			高等学校		
	区名	校園数	区名	生徒数		区名	生徒数	
1	北	78校	平野	5,589人	(12校)	天王寺	16,002人	(12校)
2	天王寺	67校	天王寺	5,528人	(9校)	阿倍野	7,804人	(8校)
3	淀川	59校	城東	4,854人	(9校)	住吉	7,730人	(7校)

(平成27年度学校基本調査)

- 65歳以上人口の約65%が独居世帯または夫婦のみ世帯で、全国平均を約11ポイント上回っています。

65歳以上の人がある世帯の状況



(平成22年国勢調査/平成22年国民生活基礎調査)

- 病床数と医師数は大阪市24区中1位です。

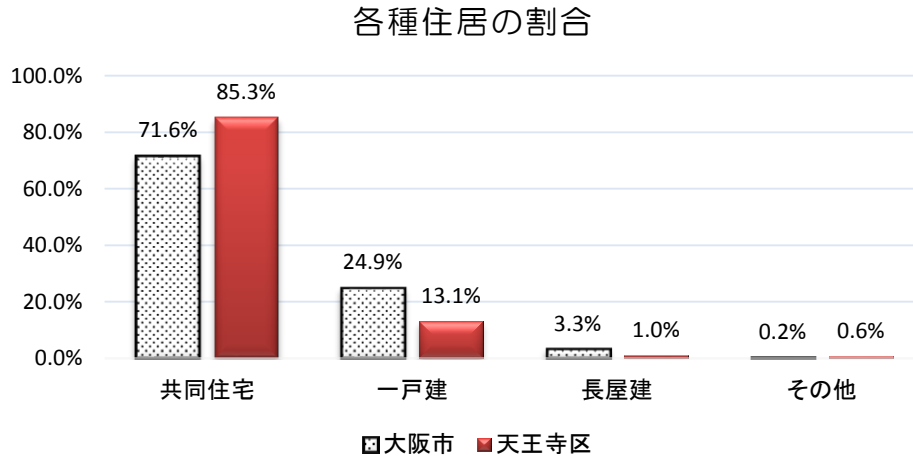
人口千人あたりの病床数及び医師数 上位3区

順位	区名	人口千人あたり 病院病床数	区名	人口千人あたり 医師数
1	天王寺	37.84床	天王寺	10.68人
2	北	29.28床	北	10.17人
3	福島	21.16床	中央	10.13人

(注：病床数は休止を含み、医師数は非常勤を含む。平成22年 大阪市健康局)

＜参考資料3＞

- 区内のマンション割合は全住居の約85%を占めます。大阪市の平均は約72%ですので、マンションが多いといえます。



（平成 25 年 住宅・土地統計調査）

- 上町断層帯地震が昼間に発生すると、想定で約6800棟もの建物が全半壊します。

人的被害・建物被害

最大震度	死者数	全半壊棟数	発生確率
6 弱～7	(早朝) 391 人 (昼間) 573 人	6,813 棟	今後 30 年以内に 2～3 %

（平成 17 年度、18 年度 大阪府自然災害総合防災対策検討委員会）

- 南海トラフ巨大地震が発生すると、その振動により多くのマンションが被災します。

人的被害・建物被害

最大震度	死者数	全半壊棟数	発生確率
6 弱	3 人	2,106 棟	南海トラフ沿いで 今後 30 年以内に 70 %程度

（平成 25 年度 大阪府防災会議 南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会）

＜参考資料3＞

●多くの歴史的・文化的資産が集積しています。

宗教法人数

順位	区名	総数
1	天王寺	219
2	生野	169
3	東住吉	158

(平成 26 年度末 大阪府府民文化部)

文化財数

順位	区名	国宝	区名	重要文化財
1	都島	9 件	天王寺	52 件
2	城東	8 件	都島	51 件
3	天王寺	4 件	中央	41 件

(平成 26 年度末 教育委員会事務局)



＜参考資料3＞

2 アンケート結果から見る傾向

天王寺区役所では、区民の皆さんの“声”を区政に反映するため、区政会議をはじめ、職員が区内の様々な場所で区民の意見をお聴きする「あなたの声をつなげ隊」、区民モニター（区政評価員）を活用し、幅広くご意見をお聴きしています。

●優先すべきと考える事業分野は、「防犯」、「子育て支援」が上位となっています。

【問】優先して取り組むべき下記の事業分野について1位から3位まで選択してください。

事業の分野			
人材育成	子育て支援	地域福祉・健康	防災
防犯	まちのにぎわい	地域社会づくり	その他

1位3点、2位2点、3位1点でポイントを付けて順位を算定しました。

順位	平成27年度		平成28年度	
1	防犯	436点	子育て支援	417点
2	子育て支援	399点	防犯	316点
3	地域福祉・健康	335点	地域福祉・健康	291点
4	防災	276点	防災	218点

（平成27年度・28年度 区民モニター(区政評価員)アンケート）

●拡大すべきと考える事業は、防犯・防災、高齢者等支援、人材育成の取組で、いずれも上位となっています。

【問】各事業を今後どのように展開すべきとお考えか、今後の方向性についてお答えください（平成27年度は32事業中、平成28年度は26事業中で聴取）。

拡大の意見の多かった順番に並べてみました。

平成27年度			平成28年度		
順位	事業名	拡大	順位	事業名	拡大
1	子どもの防犯に向けたまちづくり事業	42%	1	子ども安全見守り防犯カメラの設置	33%
2	独居高齢者等見守りサポーター事業	28%	2	自転車マナーの向上	31%
3	災害時避難所整備事業（災害避難所分）	25%	3	地域安全パトロール事業	24%
	災害時避難所整備事業（マンション備蓄分）	25%		グローバル人材育成事業	24%
	地域安全パトロール事業	25%	5	高齢者等見守り支援関連事業	22%
6	子ども安全指導員	22%	6	イノベーション人材育成事業	21%
	自転車利用適正化事業	22%	7	災害時避難所整備事業（災害避難所分）	19%
8	イノベーション人材育成事業	21%	8	子育てスタート応援事業	18%

（平成27年度・28年度 区民モニター(区政評価員)アンケート）

第2章 区の将来像

天王寺区では、地域の特性、区民の皆様のご意見を踏まえ、

「みんなの『思い』が区政に反映されているまち」

「未来を担う人材が育成されているまち
～日本一の文教『都市』の実現～」

「『命を守る政策』がしっかりと進められているまち」

「歴史的・文化的資産を活かして多くの人が集いにぎわうまち」

「つながりあい・支えあい・助け合うまち」

をめざします

1 天王寺区将来ビジョン（2017年4月版）の策定にあたって

天王寺区将来ビジョンは、区長が区内の基礎自治行政を総合的に推進していく上で、地域としての区のめざすべき将来像、将来像の実現に向けた施策展開の方向性等をとりまとめ、区民の方々に明らかにするものとして、平成25年4月に策定、天王寺区将来ビジョン「天王寺区2.0～新しい区政運営のための骨太の方針～」として公表しました。

区政の推進にあたっては、「みんなの『思い』が区政に反映されているまち」の実現を第一に掲げ、区政会議をはじめ、職員で構成する「あなたの声をつなげ隊」によるアンケート、区民モニター（区政評価員）アンケート調査などにより、施策・事業の基本となる区民の皆さんの“声”（意見）を聴取することに力を入れてきました。

平成27・28年度に実施した区民モニター（区政評価員）アンケート調査の結果によりますと、今後、優先すべき事業分野、あるいは、拡大要望の多い事業としては、防犯・防災、高齢者等支援、人材育成の取組などが上位を占めています。

これら区民の皆さんのご意見は、都心部に位置し昼間の流入人口が多く、また、若年層を中心に人口が増加傾向にありながら、高齢者のみの世帯も多く、

＜参考資料3＞

自然災害リスクにも直面する天王寺区の地域特性に即したものであると考えられます。

こうしたご意見や地域特性を踏まえ、新たな天王寺区将来ビジョン（2017 年 4 月版）の策定にあたっては、これまでのビジョンの骨格を基本的に踏襲することとしたうえで、先の“5つの柱”に掲げる天王寺区の将来像の実現に向け、次のとおり取り組んでまいります。

- ☆ 区民の皆さんのご意見をしっかりお聴きし、それをしっかりと区政に反映させる、「**みんなの『思い』が区政に反映されているまち**」をめざします。
- ☆ 子どもたちが安心して育まれ、勉強やスポーツ、文化活動などに打ち込めるよう、子育て支援、教育環境の充実に取り組み、「**未来を担う人材が育成されているまち～日本一の文教『都市』の実現～**」をめざします。
- ☆ 住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせる地域づくり、子どもの安全の確保、地域の力を結集した“防災力”の向上に取り組むなど「**『命を守る政策』がしっかりと進められているまち**」をめざします。
- ☆ 「天王寺 真田幸村博」で盛り上がった地域の機運をさらに大きくできるよう、周辺地域とも連携を図りながら天王寺区の魅力発信に取り組み、「**歴史的・文化的資産を活かして多くの人が集いにぎわうまち**」をめざします。
- ☆ 隣近所など身近な人と人との豊かなコミュニティは、暮らしの安全安心にもつながります。地域活動協議会や身近なコミュニティへの支援など、「**つながり合い・支え合い・助け合うまち**」をめざします。

2 新たな区将来ビジョン（2017 年 4 月版）の対象期間

区の将来像を見据える期間は、2017 年度～2021 年度までの 5 年間とします。



第3章 施策展開の方向性

「みんなの『思い』が区政に反映されているまち」に向けて

1 「区民の声」集約と反映プロセスの強化

○めざす状態

区役所が、区民の意見やニーズを的確に把握することにより、区の特性或地域事情に応じた施策・事業を展開できている状態

○現状と課題

- ・ 天王寺区では、区政会議の開催、職員が区内の様々な場所で区民の意見をお聴きする「あなたの声をつなげ隊」や区民モニター（区政評価員）の活用などにより、施策の評価、今後の区政に求めることなど、区民の意見・ニーズをサイレントマジョリティも含め幅広くお聴きし、施策・事業に反映してきました。

このような施策・事業の見直し等に際し、区民の意見を重視する当区独自の『PD”L”CA サイクル』（LはListen＝聴取）のプロセスを、事業評価シートとして取りまとめ、区民への“見える化”に努めるとともに、施策・事業への反映事例を広報紙、掲示板ポスター等により広く周知してきました。

〔代表的な施策・事業〕

- 子育て支援の充実を求めるご意見⇒ 子育てスタート応援券の交付
- 観光・集客策へのご意見 ⇒ 真田幸村回遊ロードサインの設置
- 通学路等の安全を求めるご意見 ⇒ 防犯カメラの設置 など

- ・ しかしながら、「区役所が区民の様々な意見や要望を聞くなど区政の運営に反映するよう努めていると思う区民の割合」が35.7%（平成27年度区民モニター調査）と低いことから、今後も引き続き区民の意見の施策・事業への反映に努めるとともに区民への更なる周知が課題です。

○施策展開の方向性

幅広く区民の意見・ニーズを把握し、区政へ反映します

- ・ 区政への関心の高さやテーマなどによって意見聴取方法を工夫し、サイレントマジョリティを含め幅広く区民の意見・ニーズを把握するとともに、施策・事業の対象者、参加者等の評価を集約し、次年度の施策・事業へ反映させます。
- ・ より多くの区民の皆さんの“声”を聴取するため、「あなたの声をつなげ隊」が区内の様々な場所にお伺いします。
- ・ 全ての事務事業（区長自由経費で実施する事業）について事業評価シートを

＜参考資料3＞

作成し、区民の意見・ニーズをどのように施策に反映したのかを明らかにします。
なお、施策に反映しなかった場合は、その理由を明らかにします。

区政への反映状況は SNS など多様な媒体を使い情報発信を徹底します

- ・ 施策・事業への反映状況については、従来の広報紙、掲示板ポスターの活用に加え、ホームページや SNS など多様な媒体を活用するとともに、“伝わる”広報を意識し、大胆なデザイン、ユニークなネーミングといった“目を引く”工夫を行うなど周知の強化に努めます。

○成果指標

区政運営について区民の意見や要望を反映していると思う区民の割合：60%以上

2 区民に身近な総合行政拠点としての区役所づくり

○めざす状態

区役所が、区民から寄せられる様々な相談や要望を総合的に受け付け、適切に対応するなど、区における市政の総合窓口としての役割を果たしている状態

○現状と課題

- ・ 天王寺区に寄せられた区民の意見、要望に対して、総合窓口としてワンストップで対応すべく、所管局において対応すべき事項については、速やかに伝達し連携して課題解決に取り組んできました。

また、職員の意識改革、能力・資質向上に向けた「天王寺区役所 職員力向上基本プラン」に沿った取組を推進するとともに、区民サービスの向上の視点から接遇研修などに取り組んできました。

さらに、「市政改革プラン 2.0」に掲げる視点を踏まえ、区民サービスの向上、効率的な区政運営等をめざし、職員が主体的に発案・検討した「天王寺区における職員が主体となった市政改革の推進 ～」やります天王寺職員！ 100 の取組！ “～” をとりまとめ、取り組んでいるところです。

【代表的な施策・事業】

- 区民の要望を受け建設局と協議し駅周辺に自転車駐輪場を設置
 - 全職員を対象とした接遇研修の実施
 - 企画・立案力を養い、他課の業務について理解を深める職員塾の開催 など
- ・ しかしながら、「区役所が区民に身近な窓口として、責任をもって、適切に対応したと感じる区民の割合」は 72.9%（平成 27 年度区民モニター調査）と現状では目標の 8 割には満たない水準であることから、全職員が行政マンとしての“プ

＜参考資料3＞

ロ意識”を徹底し、区役所が身近な総合行政の拠点として信頼を高めることが課題です。

○施策展開の方向性

身近な総合行政拠点としての信頼を高めます

- ・ 区民から寄せられる様々な相談や要望を受け付け、適切に関係局等と連携し、区民の日常生活を担う身近な総合行政の拠点としての信頼を高めます。

職員一人ひとりが主体的に市政改革を推進します

- ・ 職員一人ひとりが、主体的に、区民サービスの向上、効果的・効率的な業務遂行に取り組み、市政改革を積極的に推進します。

区民サービス向上にチャレンジする職員を育てます

- ・ 区民ニーズを的確に把握し、新たな業務改善・区民サービスの向上にチャレンジする職員、常に向上心・責任感・プロ意識を持って業務に取り組む職員を育成します。

○成果指標

区役所に日常生活に関する相談や要望を行った区民のうち、区役所が、区における市政の総合窓口として、適切に対応したと思う区民の割合：85%以上

「未来を担う人材が育成されているまち
～日本一の文教『都市』の実現～」に向けて

3 「日本一の文教『都市』」をめざした人材育成の取組

○めざす状態

- ・ 未来を担う人材育成に、乳幼児期から取り組んでいる状態
- ・ 子どもが社会で生きていく力を育むための「社会教育」の機会が提供されている状態

○現状と課題

- ・ 文教地区として高い評価を得ている天王寺区は、子どもや子育て世代の割合が高く、少子高齢化が進む近年においても若年層の転入者が伸び続けています。こういった区の特性から、子育て支援や教育施策の充実を望む声が多く、天王寺区独自の取組を行っています。

【代表的な施策・事業】

- 子育てスタート応援事業の実施
 - 子育て情報博覧会の開催、子育て情報アプリ「ぎゅっと！」の配信
 - 英対話講座（中学生）、英語体験活動（小学生）の実施
 - 中高生インターンシップ事業の実施
 - 天王寺区ジュニアクラブ事業の実施
 - 校長経営戦略支援予算を活用した「日本一の文教『都市』」推進事業の実施（音楽交流会、外部指導者派遣 等） など
- ・ しかしながら、「乳幼児期から未来を担う人材教育が積極的に進められているまちであると感じる区民の割合」は、44.5%（平成 28 年度区民モニター調査）と低く、ニーズに応じた利用しやすいサービスの提供や事業の周知、情報発信の強化が課題となっています。また、子育て世代の転入者の増加による待機児童対策や、こどもの貧困対策についても課題となっています。

○施策展開の方向性

これからの社会を担う人材を育てます

- ・ グローバル社会で活躍するための英対話力を養う講座や社会で生きていく力を養うキャリア教育を実施し、これからの将来を担う人材を育成します。

これからの地域を担う人材を育てます

- ・ 地域行事や活動にスタッフとして参加したり、福祉施設など公共施設等で社会体験を行ったり、子どもの頃から様々な経験を積む取組（ジュニアクラブ活動）を実施し、将来の地域の担い手を育成します。

＜参考資料3＞

文教地区としての“強み”を活かします

- ・ 小中学校における特色ある取組や学力・体力の向上など市をあげて取り組んでいる課題を改善する取組を、学校や地域により近い区役所が積極的に支援していきます。また、多くの学校園や大阪日本語教育センターなどと連携した取組を進めていきます。

待機児童“ゼロ”を実現します

- ・ 喫緊の課題となっている待機児童対策やこどもの貧困対策については、区の課題解決に向けた検討を主体的に行い、全市的な取組と連携しながら効果的に推進します。とりわけ待機児童は、保育所整備促進の強化、マンション建設事業者へ保育所整備の協議を義務付ける制度の創設などにより“ゼロ”を実現します。

○成果指標

乳幼児期から未来を担う人材育成が積極的に進められているまちであると感じる区民の割合：80%以上

「『命を守る政策』がしっかりと進められているまち」に向けて

4 支援を要する人一人ひとりの命を守りぬく地域福祉

○めざす状態

- ・ 急病時、災害発生時に支援を要する人が孤立しないような見守り体制が構築されている状態
- ・ 健康保持増進に取り組む区民が増えている状態

○現状と課題

- ・ 天王寺区では、地域住民などを中心としたボランティアが、75歳以上で介護保険のサービスなどを受けていない独居高齢者、高齢者のみの世帯を定期的に家庭訪問し、医療・介護等の課題への早期発見・早期対応を図る取組を実施するとともに、避難行動要支援者*名簿に登録されている要援護者のうち名簿の地域への提供について同意の得られた方に対して、地域における平時の見守りと災害時の避難支援への備えを強化する取組を実施しています。

また、介護予防の観点から、健康の保持増進を図るため、健康に関するイベントの開催、健康体操の普及、健(検)診への受診呼びかけを行っているところです。

〔代表的な施策・事業〕

- 独居高齢者等見守りサポーター事業の実施
- 地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業の実施
- ももてん体操の普及 など

- ・ しかしながら、「独居高齢者等への見守り体制が構築されていると感じる区民の割合」が38.6%（平成28年度区民モニター調査）であり、引き続き、地域の協力を得て見守り体制の構築を図ることが課題となっています。

また、要介護者認定者数の増加〔平成27年度3,348人（3年間で約10%増）〕に加え、がん検診の受診率が市平均を下回る種別〔胃がん：27年度3.8%（大阪市3.9%）、肺がん：27年度5.2%（大阪市6.2%）〕があることから、健康保持増進の取組の強化についても課題となっています。

【ことば】避難行動要支援者

要配慮者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦、児童、傷病者、外国人など、特に配慮を要する方）のうち、自ら避難することが困難な方で、円滑かつ迅速な避難の確保を図るために特に支援を要する方。

以下のような状態の方が該当します。

- ・ 移動が困難な方 ・ 日常生活上介助が必要な方
- ・ 情報を入手したり、発信したりすることが困難な方 など

＜参考資料3＞

○施策展開の方向性

地域との連携のもと支援を要する人の見守りを進めます

- ・ 既存の事業に引き続き取り組むとともに、「食事サービス」や「ふれあい喫茶」など地域で実施されている活動との連携を強化し、見守りが必要な独居高齢者等の生活や体調の異変を早期に察知して適切に対応していきます。

いつまでも‘元気’をめざし、健康体操の普及を進めます

- ・ 区民の方の健康保持増進のため、健康に関するイベントの開催をはじめ、健康体操の普及や健(検)診への受診を呼びかけます。とりわけ、健康体操ではももてん体操に加え、新たな健康体操の普及を行います。また、健(検)診への受診呼びかけでは、区広報紙での周知に加えて、新たな広報媒体での周知を行います。

地域包括ケアシステムの構築を進めます

- ・ いつまでも住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることができるよう、独居高齢者や支援を要する人の見守り体制の推進、さらには、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保されるように「地域包括ケアシステム」の構築を進めるなど、区民の暮らしの“安心”をしっかりとサポートします。

○成果指標

- ・ 独居高齢者等への見守り体制が構築されていると感じる区民の割合：80%以上
- ・ 健康に関する取組を行っている区民の割合：80%以上

5 地域の力を結集した「防災力」向上の取組

○めざす状態

区民が被災しても安心して自宅または避難所で生活できる状態

○現状と課題

- ・ 天王寺区では、上町断層帯地震や南海トラフ巨大地震により大きな被害の発生が想定されていることから、「防災力」を高めるために、これまで次の3項目を対策の柱として取り組んできました。

- ①区民の皆さんに災害への対策を理解いただき、各自で対応できるようにする能力を高めるために、区民の皆さん一人ひとりに取っていただきたい対策（「自助」の取組）の周知・啓発
- ②震災時に行政による支援が間に合わない場合でも地域の皆さんでお互いに支え合い、助け合えるよう、地域防災リーダー（災害救助青年部）を中心とした地域の皆さんによる「共助」の取組への支援

＜参考資料3＞

- ③被災者の安全確保とともに被災後の生活環境の整備を図るために、災害時避難所・一時避難場所の拡充や避難所備蓄物資の整備など「公助」の取組の実施

〔代表的な施策・事業〕

①「自助」の取組

- ・天王寺区防災ハンドブックの作成（全戸配付）、区広報紙防災特集号の発行
- ・出前講座の開催
- ・高齢者、障がい者、ひとり親家庭向け家具固定器具の取付支援事業の実施

②「共助」の取組

- ・避難所開設・運営訓練の実施
- ・地域別防災計画の策定および概要版の配付（地域ごとに順次策定・配付）
- ・地域における要援護者見守りネットワーク強化事業と連携した、避難行動要支援者の支援体制の構築

③「公助」の取組

- ・災害時避難所 20 ヶ所、一時避難場所 46 ヶ所、福祉避難所 7 ヶ所を指定（平成 29 年 2 月 10 日現在）
- ・災害時避難所備蓄物資の整備（簡易トイレ、凝固剤、ソーラーランタン等）

- ・ しながら「自助」の取組に関しては、災害用備蓄物資の準備率や家具の固定率はここ数年約 40%前後にとどまっており、また、災害時避難所の場所を知っている方の割合も約 85%前後で横ばいである（ともに区民モニター調査）ことから、一人でも多くの区民の皆さんに災害に関する知識を身につけ、必要な対策をとっていただけるよう「防災力」の向上に向けた啓発が課題です。
- ・ また「共助」の取組に関しては、これまで連携の薄かった様々な地域資源との新たなつながりを広げ、「防災力」の向上を図っていくことが課題です。
- ・ さらに「公助」の取組に関しては、引き続き避難所の拡充を進めるとともに、備蓄物資が十分ではないことから、できるだけ早期の整備が課題です。

○施策展開の方向性

新たな地域資源を防災力向上につなげます

- ・ 区内では上町断層帯地震や南海トラフ巨大地震で大きな被害が想定されていることから、出前講座の開催や家具固定器具取付方法の周知といった自助の取組の啓発など既存の事業に引き続き取り組むとともに、これまで連携の薄かった様々な地域資源との新たなつながりを広げ、それぞれの持つ特性を活かして、地域の力を結集して「防災力」の向上を図ります。
- ・ 具体的には、災害時に地域における被災者の支援や復興への協力意思を持つ事

＜参考資料3＞

業所・店舗等の拡充を図り、これまでつながりのなかった企業・事業所の強みを防災に活かします。また、医療機関・関係機関との連携による医療救護体制の充実・強化、広い境内地を有する寺社との連携による一時避難場所の確保などに取り組みます。

マンションの防災力向上に力を入れて取り組みます

- ・ 区内ではマンションに居住する方が多い状況をふまえ、マンションに特化した防災学習会の開催などの取組を通じてマンションとの関係を構築し、住民に対する啓発を進め自助の取組を促します。また、マンション管理組合による、子どもから高齢者まで多世代の方が参加できるような防災訓練の開催や自主防災組織の構築の支援を行うとともに、地域とのつながりづくりを進めます。

住民相互の助け合いの取組を積極的に支援します

- ・ 地域防災リーダー（災害救助青年部）を中心とした地域の皆さんによる、子どもから高齢者まで多世代の方が身近なところで参加できるような防災訓練の開催や避難行動要支援者支援体制の構築など、住民相互の助け合いの取組を積極的に支援します。

○成果指標

- ・ 災害時の非常準備品の用意率：70%以上
- ・ 家具の固定率：70%以上
- ・ 災害時避難所の場所を知っている区民の割合：90%以上

6 子どもの安全安心を守り、誰もが安全で安心に暮らせるまちづくり

○めざす状態

- ・ 子どもが安全で安心して学び遊べる状態
- ・ 区内の鉄道駅周辺の放置自転車が減少し、道路を安全に安心して通行することができる状態

○現状と課題

- ・ 天王寺区では、これまで「誰もが安全で安心に暮らせるまち」の実現に向けて、区内における子ども犯罪被害及び自転車関連をはじめとする交通事故の防止に向けた地域・警察・行政の協働による対策や、だれもが安全で安心して道路を通行できるように放置自転車台数の減少をめざした啓発活動など、様々な取組を進めてきました。

＜参考資料3＞

〔代表的な施策・事業〕

○子ども犯罪被害及び交通事故の防止に向けた対策

- ・区役所による防犯カメラの設置(平成30年3月末までに累計100台整備)
- ・地域安全パトロール隊によるパトロール活動
- ・スマートフォン向けアプリゲーム「Ingress (インGRES)」を活用した公園の見守り活動
- ・警察と連携した自転車マナー向上、交通事故防止に向けた出前講座の実施

○放置自転車減少をめざした対策

- ・駅周辺における区民の皆さんとの協働による重点的な啓発活動の実施
- ・駐輪場の整備や放置自転車の撤去 など

- ・ しかしながら、「子どもの安全が守られていると感じる区民の割合」は63.3% (平成28年度区民モニター調査) と現状では目標の8割には満たない水準であることや、子ども犯罪被害は毎年発生しており、放置自転車台数も下げ止まりになりつつあることから、引き続き子どもの安全安心の確保、だれもが安全で安心して通行できる道路の確保に向けた取組が必要となっています。

○施策展開の方向性

子どもの安全を守ります

- ・ 子ども犯罪被害に対しては、安全教室など子どもたちが自分の身を守る知識を身に付けるための取組を継続しつつ、通学路・公園等の安全確保を促進するために、当面防犯カメラの設置を進めるとともに、設置効果を検証し、今後の展開を検討します。

自転車マナー向上の取組を強化します

- ・ 自転車マナーに関しては、区民の皆さんから向上を求める声が多いことをふまえ、引き続きマナー向上に向けた啓発活動や警察と連携した出前講座などの取組を進めます。

放置自転車の削減を図ります

- ・ 放置自転車対策については、引き続き区民の皆さんとの協働による啓発活動、駐輪場の整備や放置自転車の撤去などを進め、放置自転車台数の削減を図ります。また、違法駐車のおトバイについては警察と連携して対応します。

○成果指標

- ・ 子どもの安全が守られていると感じる区民の割合：80%以上
- ・ 区内の鉄道駅周辺の放置自転車台数：100台以下

「歴史的・文化的資産を活かして
多くの人が集いにぎわうまち」に向けて

7 戦略的なシティ・プロモーションの推進

○めざす状態

区の歴史的・文化的資産を活かして、多くの人が集い賑わうまちとなるよう、
魅力発信・観光振興が十分にできている状態

○現状と課題

- ・ 区内には約 200 もの社寺や動物園、美術館等の歴史的・文化的資産が集積し、様々な伝統行事等が開催されています。また、「天王寺 真田幸村博」や大河ドラマを契機に、地域住民等が主体となった取組の機運も高まってきたところです。
- ・ それらの情報を発信、活用して多くの人が天王寺区を訪れ、にぎわいのあるまちづくりを目指す方向性に賛同する区民意見が多くあったことから、天王寺区ではこれまでも魅力発信のための様々な取組を実施してきました。

【代表的な施策・事業】

- 大坂の陣 400 年を節目とした「天王寺 真田幸村博」の開催
- NHK大河ドラマの放送を契機とした「真田丸顕彰碑」の設置と「真田幸村めぐルート」の整備、天王寺ええとこ発見真田幸村ウォークラリーの実施
- 上町台地周遊マップ、天王寺区PRポスターの作成・配布
- なにわの伝統野菜を紹介する「天王寺蕪収穫祭」、天王寺七坂での「お寺のまち de キャンドルナイト」開催 など

- ・ しかしながら、「天王寺区の魅力発信・観光振興が十分にできていると感じる区民の割合」は 67.0%（平成 28 年度区民モニター調査）と現状では目標の 8 割には満たない水準であり、さらに効果的な情報発信を行う必要があります。
- ・ また、「天王寺 真田幸村博」開催以降も、地域住民・地域団体・企業等による主体的なプロモーションが着実に進捗しており、こうした取組を区としてしっかり支援していく必要があります。

○施策展開の方向性

地域の主体的な取組を支援し天王寺区の魅力を情報発信します

- ・ 「歴史的・文化的資産を活かして多くの人が集いにぎわうまち」を実現するため、地域住民・地域団体・企業等が主体的に行う様々な取組を支援し、天王寺区の魅力発信の一層の強化に取り組みます。

＜参考資料3＞

周辺区や関係先との連携により魅力の向上に努めます

- ・ 周辺区や関係先と連携した熊野街道ウォークや、平成 33 年（2021 年）に没後 1400 年を迎える聖徳太子の情報発信など、天王寺区の歴史的・文化的資産の魅力をより高めるよう情報発信します。

○成果指標

天王寺区の魅力発信・観光振興ができていると感じる区民の割合：80%以上

「つながりあい、支え合い、助け合うまち」に向けて

8 大きな公共を担う活力ある地域社会づくり

○めざす状態

身近な地域の中で、「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支え合い」を実感できる状態

○現状と課題

- ・ 豊かな地域コミュニティの形成をめざし、おおむね小学校区を範囲として、地域団体をはじめとする多様な団体が集まり、話し合い、協力しながら、地域課題の解決やまちづくりに取り組んでいくための仕組としての地域活動協議会が立ち上がり、地域において様々な形で熱心な活動が展開されています。
- ・ 区役所では、地域活動の活性化や地域活動協議会の自律的運営に向け、中間支援組織（天王寺区まちづくりセンター）と連携しながら、校区等地域において「自らの地域のことは自らの地域が決める」という意識のもと、運営委員会の運営や事業計画の策定、会計事務、広報等の支援、情報交換会の開催による活動主体間の連携に向けた環境づくりなど、様々な支援を行ってきました。

〔代表的な施策・事業〕

- 地域活動協議会の運営にかかる会計事務、会議や広報の支援
 - 区内企業やNPO、私学校園との連携支援
 - 地域活動協議会の認知度を高めるための区広報紙への地域活動紹介の連載
 - 公園協働パートナー等行政からの公募事業に対する地域活動協議会受託業務の支援 など
- ・ しかしながら、「身近な地域の中で、「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支え合い」を実感している区民の割合」は 59.7%（平成 27 年度区民モニター調査）にとどまっていることや、地域活動については、近年のマンション建設の増加に伴う新しい住民や若手世代への広がりや、身近な地域のコミュニティづくりは、まだ十分ではなく、地域活動協議会の自律運営に向けた事務処理や活動の担い手の育成・確保などもまだ十分とはいえない状況です。

○施策展開の方向性

身近なコミュニティづくりを支援します

- ・ 豊かなコミュニティと多様な主体の協働（マルチパートナーシップ）を実現するため、隣近所など身近な地域での人と人とのさらなるつながりづくりを促進しながら、地域活動協議会をはじめとする様々な活動主体が地域課題等を共有し、連

＜参考資料3＞

携・協働の取組が進められるように支援します。

地域活動を支える新たな資源の確保に努めます

- ・ 地域資源（人材、モノ、資金、地域情報等）の循環が継続的に図れる地域をめざすとともに、コミュニティ・ビジネス、ソーシャル・ビジネスの意義やメリットを伝え、地域におけるビジネス化の取組を支援します。
- ・ また、地域活動協議会への財政的支援を継続するとともに、区政推進基金やクラウドファンディングの活用など、新たな財源確保の検討を進めます。
- ・ 地域で活躍できる担い手の充実のため、様々な活動主体の調整や話し合いを促す人材を発掘するとともに、大阪市地域公共人材の活用を促進します。
- ・ 区内の様々な企業、事業所、NPO等の地域資源を、地域課題の解決や公共の福祉の増進につなげる新しい取組を推進します。

○成果指標

身近な地域の中で、「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支え合い」を実感している区民の割合：70%以上

区将来ビジョンの推進に向けて

第3章「施策展開の方向性」では、区の将来像の実現に向けた取組の“大きな方向性”を区民の皆さんと共有させていただきたく、お示しいたしました。

本ビジョンに基づく区役所の取組は、各年度の「区運営方針」において具体化し、成果目標を定め、PDCAサイクルを回しながら、しっかりと取り組んでまいります。

また、本ビジョンに示す将来像の実現に向けては、区民の皆さんをはじめ、各種団体・企業など、このまちに関わるさまざまな方々との連携・協力が欠かせません。

皆さんとともに天王寺区将来ビジョン(2017年4月版)を推進し、“住んでよかった”と思える天王寺区をめざしてまいります。